

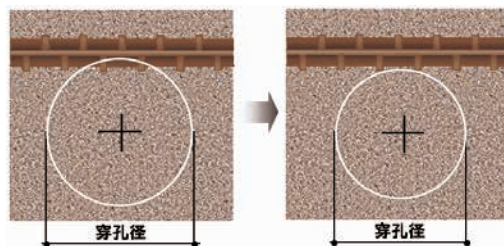
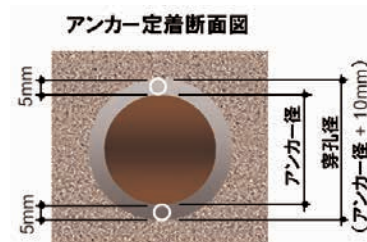
■従来工法のデメリット

なぜ+10mmか？

従来は、現場調合のエポキシ樹脂を注入する際、注入用パイプ（φ5mm）と、排出パイプ（φ5mm）の合計10mmを定着アンカー径にプラスして穿孔しなくてはなりません。

穿孔径を小さくできたら・・・

鉄筋に干渉する確率が下がります。その結果ダメ穴により躯体が傷ついたり、穿孔やり直しによる工程ロス等のリスクを低減できます。



■注入管理の原理

移動量計算 必要樹脂量をピストンプラグの移動量で管理出来ます。

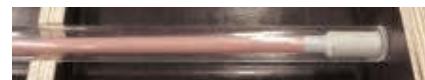
ピストンプラグ移動量 = 必要樹脂量 ÷ 穿孔断面積

(樹脂量 = 穿孔容積 - アンカー容積)

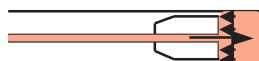
注入原理

注入すると充填された樹脂によりピストンプラグが押し戻され、順次充填が行われます。

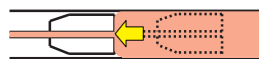
①樹脂が充填されたピストンプラグを孔底まで挿入する。



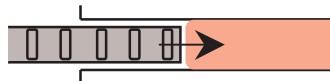
②樹脂を注入するとピストンプラグが押される。



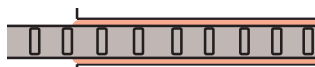
③注入量に併せてピストンプラグが移動する。



④アンカー筋を挿入。樹脂が押し出される。



⑤アンカー筋を挿入完了と同時に、樹脂量が計算されているので樹脂で孔が充填され施工完了。



施工品質を飛躍的に向上させる、ヒルティプロフィシステム
ピストンプラグによる充填で確実に樹脂管理ができます

NETIS

No. CB-100022-V

■プロフィシステム

延長チューブ

ピストンプラグ

※攪拌状況

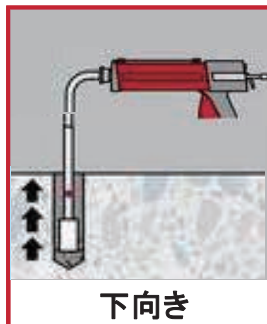
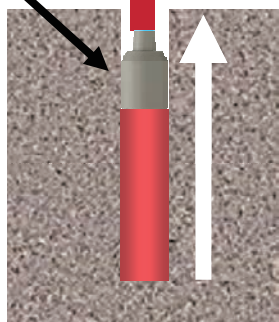
ミキシングノズル



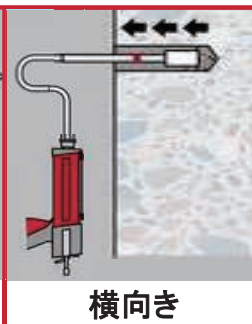
HIT-RE500
フォイルパック



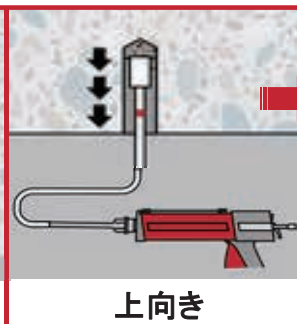
専用ディスペンサー



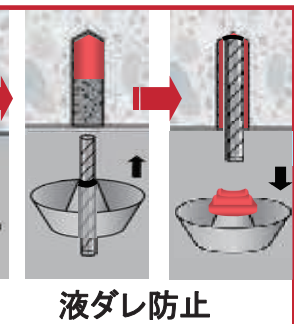
下向き



横向き



上向き



液ダレ防止

■施工事例

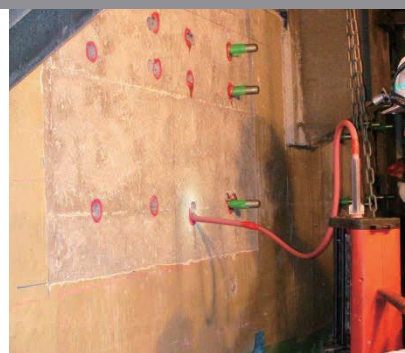
落橋防止工事



ブロック吊上げ工事



施工状況



お問い合わせ TEL:  0120-66-1159 mail: jp-netis@hilti.com